

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	615-4 観光振興事業(語り部の育成)	会計	01	一般会計
		款	07	商工費
		項	01	商工費
基本 施策	44 資源ともてなしの心を活かし、観光を振興する	目	03	観光費
		細目	336	観光振興経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	01	観光振興経費
担当部課	コード 191400 名称 産業建設部商工労働観光課	担当者氏名	川部 千佳	連絡先 43 - 2309 (内線)

事業事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀上野語り部の会	※対象件数
成果(どうする)	語り部のレベルアップが図られ、観光客の増加につながる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H22 事業 内容	①語り部研修のための支援を行った。 ○平成22年6月29日：三重観光ボランティアガイド連絡協議会総会及び研修会参加 ○平成22年11月9日：三重観光ボランティアガイド連絡協議会平成22年度北中勢・伊賀地区交流研修会参加 ○平成23年3月15日：研修交流会(兵庫県篠山市) ○傷害保険継続	
社会情勢 の変化等	○伊賀上野語り部の会のみならず、各観光協会単位で語り部の育成に取り組んでいる。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 委託先	
2 配置人員	
3 年間運営費	
4 市内の 類似施設	

事業事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
語り部の視察研修	回		目標	2	目標	2
			実績	3	実績	3
			目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
語り部の登録者数	登録者数を50人にするため、段階的に目標を設定する。		人	目標	46	目標	47
				実績	44	実績	35
語り部案内件数	前年度比5%増		件	目標	165	目標	155
				実績	149	実績	81

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金	4,256	98	30	530
	県支出金	4,128			
	地方債				
	その他				
	一般財源	128	98	30	530
事業投入人件費(B)		0.1人	0.1人	0.1人	0.3人
フルコスト(A)+(B)		4,976	818	750	2,690

事業事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは地域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	○
	観光振興を積極的に取組むことにより集客交流が促進され、それに伴い経済活動や地域の活性化が見込まれるため、伊賀市が観光都市として進むことへの市民ニーズは高い。多様な観光ニーズに対応するためには、地域資源を活かしたニューツーリズムを進める必要があり、語り部の育成は欠かせないものとなる。	
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事業事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事業事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高いサービス水準や対象を見直す余地がある。	○
	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事業事業がある。	
	【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	引き続き、語り部養成講座を開催し、新たな人材育成を行うとともに、今年度において伊賀学検定受講者の活用検討を行う。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 猛暑や高速道路無料化等の影響により、観光客入込客数が減少傾向にあるのに伴い、語り部の要請数も減少した。9名が新たに語り部として登録したが、これまでに登録していた方が高齢等の理由で辞められたので総数としては減少した。一方、伊賀学検定受験者数は増えており、地域への関心の高まりは感じられる。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	松本 浩典
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 * 市民一人ひとりがおもてなしの心を醸成し、語り部もしくは観光大使となり、行政や観光事業者のみならず市全体で観光振興に取り組んでいく。
現時点における課題、その他	* 語り部の高齢化、固定化、後継者不足
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	各観光協会に語り部の育成事業を委託し、各地域ごとの語り部育成を進め、語り部数を増やす。